

第19回 復興支援活動レポート



写真撮影/村上 孝博

1. 概要

(1) 行程 平成25年2月16日(土)～17日(日)

(2) 参加者 5名(青木、村上、中村、遠藤、原島)

※ワーカーズコープ石巻事業所 GAGA のカプロジェクト5名(中居、木村、松川、神山、千葉)

(3) 支援内容

- 渡波仮設団地 暖かギフト配布、住民交流会
- たんぼぼ保育園 交流訪問
- 大門町「十五浜屋」交流訪問

①たんぽぽ保育園訪問

2年連続、運動会の運営支援を行った、宮城県石巻市渡波地区にある「たんぽぽ保育園」を訪問し、園児たちとひと時の交流を行ってきました



今日の園児は11名、みんなそろってご挨拶



園児とボランティアの手遊び



たんぽぽ相撲開催、みんな元気に「はっけよい



のけ



神奈川県的小木曾様から、蛙のおもちゃと紙風船をプレゼント



「おじさんは入れないぞ〜」

②たんぼぼ保育園 千葉園長先生宅訪問



千葉園長先生ご夫妻



牡蠣汁に大根と昆布の煮物をご馳走になりました

「若い人たちが震災から立ち直れないまま。震災以降、親御さんと同居する家庭も増え、以前は仕事を持っていた若いお母さん達が、自立して就労を急ぐ理由がなくなっている」と園長先生。開園から20年、1円も利用料を値上げせず、園児や働く親をサポートしてきたたんぼぼ保育園、震災で閉園した保育園もあり、来春には近所に公立保育園が開園するそうです。これ以上園児が減少すると、園の存続が危ぶまれると語られていました。

③渡波地区大門町 十五浜屋訪問

昨年7月まで炊き出しや物資提供の継続支援に入っていた大門町「十五浜屋」へは、石巻へ訪れる度に訪問、海鮮出汁のさっぱりラーメンと、こだわりのカレーをご馳走になりました。女将の千葉さんから「あなたたちには一番大変な時期を助けてもらった」と御礼に秘伝のめんつゆをプレゼントされました。十五浜屋は大門町ではいち早く再建を果たし、毎日お客さんが訪れるそうです。

昨年7月の十五浜屋 津波により全壊



復興した「十五浜屋」





女将の千葉さんと十五浜屋秘伝のタレ（非売品）



人気のラーメン+半カレーセット 山盛りでした！

④渡波仮設団地支援活動

石巻市渡波仮設第2団地へ4度目の訪問。「足が不自由、今年の寒さは堪えた、仮設住宅の方に暖をとるため使って欲しい」と都内在住の方から30万の高額寄付を頂戴しました。仮設団地自治会と相談し、153全世帯に行き渡るよう、宮城県産のネギと白菜、三陸わかめ、神奈川県産の真鯛と湘南名物シラス、鎌倉市にある「福来鳥」さんから、切干し大根まんじゅうを1000個提供して頂き、「東北神奈川コラボ暖かお鍋セット」を153世帯に配布しました。



湘南の海から真鯛！三陸ワカメは石巻ワークーズ「ガガ（お母さんの意）のカプロジェクト」より仕入れ



シラスの小分け作業、現地のお母さん、お喋りしながら素早い作業。石巻GAGAメンバーもお手強い



受付・配布作業も現地の方が担当



95歳のおばあちゃんと再会「あんだのことは覚えてるよ」



自治会役員さんと交流お食事会



牡蠣漁師の高橋さん「どんどん飲め〜」



95歳のおばあちゃん「娘よ」30年ぶりに歌いました



月水土夜のカラオケ大会 ラブラブ高橋ご夫妻



鎌倉福来鳥の「切干大根まんじゅう」美味しかった！

次回訪問の食事会の打合せ 話が何度も脱線

今回の支援活動は、雪による高速道路の不通を懸念し、新幹線による少人数での訪問を行いました。4度目の訪問ということもあり、ようやく顔馴染みの関係が築けてきたことで、現地での野菜購入やチラシ配布による事前周知などの事前準備から、仕分、受付、配布管理など、全ての工程を現地の自治会役員を中心に担って頂きました。

また三陸ワカメの仕入先でもある、ワーカーズコープ石巻事業所「GAGA（お母さんの意）のカプロジェクト」のメンバー5人が現地で合流し、共に支援活動や交流会にも参加しました。被災者13人が立ち上げた食事業は、海産物と今後は豆腐工房を展開する予定だそうです。

渡波仮設第2団地では、月水金の19～21時はカラオケ交流会を実施しています。集会室には多くの喉自慢で賑わい、日本酒を片手に仮設住宅での暮らしや震災当時のことなど、多くの方々とじっくりとお話を交えながら交流することが出来ました。

仮設住宅の暮らしを知って欲しいという、自治会長の意向もあり、集会室に宿泊させて頂きました。仮設住宅のお風呂をお借りしましたが、玄関を開けてすぐ脇のお風呂場には、炊き出し機能や脱衣スペースはなく、屋内段差の激しい住居は高齢の方には不便であろうと感じました。

今後は仮設住宅を退去する方が増えることや、人の出入りによる交流の希薄化など被災者間の格差が増大することを実感しました。

東北に何度も足を運び“忘れていません”の気持ちを届けよう
それが 東北あしはこ隊 私たちの想いです

支援金ありがとうございました！

東京都三鷹市川崎様、藤沢市小木曾様、茅ヶ崎市森谷様

(4) 参加者感想

- 今必要なのは、現地の人達の話聞き、それぞれの事情を伺った上で、我々に出来ることを行うこと。神奈川で勝手に計画を立てて、弾丸ツアーで昼過ぎに帰るのでは、実際のニーズに合った活動になっているかは判らない。
- 自治会の中心メンバーは意欲的な人が多いが、仮設から自宅や借家に移る方が増えている様子。中心メンバーが抜けた後の仮設住宅の交流や絆を保つのは課題。
- 渡波団地は転居する人も居るが、他の仮設と比べ、支援の多さや自治会の活動条件が良いため転入する人も多い。今後、仮設に残る人は相対的に困難度は高く、住民同士の交流も希薄化する。
- 継続して足繁く通うことで、直接的な支援にならずとも、現地の人たちが集まるきっかけを作り、被災者同士の繋がりを保つ一助になることが求められる。そのための時間的余裕ある訪問が必要だ。
- 足はこ隊の存在意義は、被災地の役に立ちたいと願う神奈川の人達が活動する場を確保することにある。弾丸ツアーは休みの取れない人にとって参加しやすいが、単発では進歩がない。ツアーの前に現地入りし情報収集するなど、出来る限り現地の直接情報に基づいた支援に変えるべき。
- 予め決めた支援内容をきっちりこなす、決まったこと以外やらないのではなく、参加者個人がやりたい方法でやりたい支援を行うことが大事。目的や理念で行動を強く縛るのは、本末転倒。

(5) 収支報告 (25.2/16~2/17)

収 入		支 出	
参加費	20,000	食材料費 (葱、白菜、ワカメ、真鯛、シラス他)	345,996
支援金 ※川崎様	300,000	雑費 (容器他、サランラップ)	1,517
※その他	4,000	交通費 (新幹線往復5名分)	98,500
		交通費 (レンタカー、ガソリン、高速代)	20,482
計	324,000	計	466,495